

(別記)

碧南市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域の全水田面積に占める主食用米面積の割合は、約70%で、主な転換作物としては、小麦、大豆、加工用米の面積が多く、小麦の後に大豆又は加工用米の作付を行うブロックローテーションに取り組んでおり、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。

一方で、農業者の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少がみられることから、担い手への一層の集積による水田面積の維持が課題となっている。

今後も主食用米の需要減少が予測される中で、水田面積の維持を図る上では、更なる主食用米以外への転換を進める必要があるが、一部水田において、排水不良や酸性土壌等により、麦、大豆等の収量低下を招いており、その是正が必要となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。また、地域の気候に合った品種の作付を行っていく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

当地域内に大豆の作付に適さない排水不良の水田があることから、多収品種を含めた飼料用米の導入を検討する。

イ 加工用米

当地域の加工用米は、地元醸造メーカーへ販売するもち米を中心に生産を行っている。

実需者からの品質と数量の安定供給のニーズに応えるために、今後も産地交付金を活用して品質向上に努めるとともに、契約数量の維持を図る。

(3) 麦、大豆

水田の生産性向上ため、麦、大豆の団地化及びブロックローテーションによる作付を行っているが、今後も引き続き、取り組みを維持することで、更なる生産振興を図る。また、麦、大豆等の作付にあたっては、産地交付金を活用して、土壌の酸性化を防ぐための土壌改良材の施用を行う等、品質向上に努める。

(4) 高収益作物（果樹）

産地交付金を活用し、地域振興作物として果樹（イチジク）の生産拡大を図る。

(5) 畑地化の推進

水田から畑地への転換による露地野菜等畑作物の作付面積拡大を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	311	314	311
飼料用米	0	0.1	0.5
米粉用米	—	—	—
新市場開拓用米	—	—	—
WCS 用稲	—	—	—
加工用米	12	12.3	12.9
備蓄米	—	—	—
麦	92	92	95
大豆	77	78	80
飼料作物	—	—	—
そば	—	—	—
なたね	—	—	—
その他地域振興作物	12	12.6	13
果樹（イチジク）	12	12.6	13

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	小麦及び大豆、 加工用米 (基幹作)	戦略作物の生産性向上への助成	小麦単収 大豆単収 加工用米取組面積	(29年度) 409kg/10a (29年度) 122kg/10a (29年度) 0.0ha	(32年度) 450kg/10a (32年度) 140kg/10a (32年度) 0.3ha
2	大豆 加工用米	団地化された水田における二毛作への助成	大豆取組面積 加工用米取組面積 計	(29年度) 72.0ha (29年度) 12.0ha (29年度) 84.0ha	(32年度) 80.0ha (32年度) 12.6ha (32年度) 92.6ha
3	小麦、大豆、 加工用米	団地化された水田における小麦、大豆、加工用米への助成（団地化助成）	小麦取組面積 大豆取組面積 加工用米取組面積 計	(29年度) 88.0ha (29年度) 0.0ha (29年度) 0.0ha (29年度) 88.0ha	(32年度) 95.0ha (32年度) 0.3ha (32年度) 0.3ha (32年度) 95.6ha
4	果樹 (イチジク)	高収益作物 (果樹)への助成	新植作付面積 (累積)	(29年度) 0.3ha	(32年度) 1.3ha
5	加工用米 飼料用米	加工用米、飼料用米の 品質向上への助成	加工用米取組面積 飼料用米取組面積	(29年度) 12.0ha (29年度) 0.0ha	(32年度) 12.6ha (32年度) 0.3ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり